

平成 27 年度 入学試験問題

国 語

(第 1 回)

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図があったら、
解答用紙を取り出して受験番号と氏名を記入しなさい。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は自由に使って構いません。
5. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

英語ではボデー・エクスプレッションということばがある。またそれを研究する学問分野もひらけつつあるようだ。しかしまだまだ幼稚なもので、たとえばしよっちゅう腕組みしている人物は攻撃的性格だといったあんばいだ。

① ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨 㽩 㽪 㽫 㽬 㽭 㽮 㽯 㽰 㽱 㽲 㽳 㽴 㽵 㽶 㽷 㽸 㽹 㽺 㽻 㽼 㽽 㽾 㽿 㿀 㿁 㿂 㿃 㿄 㿅 㿆 㿇 㿈 㿉 㿊 㿋 㿌 㿍 㿎 㿏 㿐 㿑 㿒 㿓 㿔 㿕 㿖 㿗 㿘 㿙 㿚 㿛 㿜 㿝 㿞 㿟 㿠 㿡 㿢 㿣 㿤 㿥 㿦 㿧 㿨 㿩 㿪 㿫 㿬 㿭 㿮 㿯 㿰 㿱 㿲 㿳 㿴 㿵 㿶 㿷 㿸 㿹 㿺 㿻 㿼 㿽 㿾 㿿 㸀 㸁 㸂

な「タクト」が価値を持たないわけではないし、まして日本の「あいづち」が愉快な共同作業の一つの原型として見直されぬとは限らない。

(多田道太郎『しぐさの日本文化』より)

問1 — 線(ア)～(エ)のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 空らん

A

C

 (B・Cは2か所あります) にあてはまることはとして最もふさわしいものを文中からそれぞれ漢字二字でぬき出しなさい。

問3 — 線①「ことばよりもはるかに深く人間の身体にしみついたなものか」とありますが、「しぐさ」と「ことば」について説明したものとしてふさわしいものを次から二つ選び、それぞれ番号で答えなさい。

- 1 「ことば」は個人の思想を明確に伝えるものであるという点で、文化という考え方との関係性が低い。
- 2 「ことば」は必ず音声をとともなうものであり、その意味でただ一つのコミュニケーション手段である。
- 3 「しぐさ」は個人の心理をそれとなく伝えてしまうという点で、集団や文化とは無関係なものである。
- 4 「しぐさ」は本人の気づかぬうちに外に出てしまうことがあり、その人の心を反映していると言える。
- 5 「しぐさ」は「ことば」より早い年れいで身につくので、社会とつながる手段としてより有用である。
- 6 「しぐさ」は「ことば」と比べてより身体的なものであり、それをまねあうことが古来行われてきた。

- 3 -

問4 — 線②「真の」とありますが、なぜ「かぎっこ」がついているのですか。その理由として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 筆者は、解答には「真の」ものと「真でない」ものの二つしかないと考えており、ここでは「真の」方を指していることを強調するため。
- 2 筆者は、ここでの問いに対する解答はだれにも出せないと考えているので、その答えは「真の」ものであるはずがないことを強調するため。
- 3 筆者は、学問における解答は多様であつてよいと考えているので、その中の一つを「真の」ものとすることは適切でないことを強調するため。
- 4 筆者は、知識の問い方は様々あつても「真の」解答は一つもないと考えており、各自が自分なりの問いを持つべきだということを強調するため。

問5 — 線③「ヨーロッパ人の目を私たちの客観の目の中に組み入れてしまった」とありますが、どういう意味ですか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 ヨーロッパ人のものの見方を基準として私たちのしぐさを観察するようになってしまった、という意味。
- 2 世界的にみて公平であるヨーロッパ人の方法を用いて私たちのしぐさを観察してしまった、という意味。
- 3 無意識のうちにヨーロッパ人の考え方と私たちの考え方を比べつつ観察するようになってしまった、という意味。
- 4 しぐさを観察するヨーロッパ人の着眼点が私たちの着眼点に近づいてきたことに気づいた、という意味。

問6 本文にはスイス人の女性や外国のビジネスマンから見た日本人のあいまいな返事や同調的な態度への批判や誤解が書かれています。これについて後の問いに答えなさい。

- (1) 日本人があいまいな返事をしたり同調的な態度をとったりするのは、人間関係においてこういうことが大切だと考えているからですか。文中から十二字でぬき出しなさい。
- (2) スイス人の女性や外国のビジネスマンがこのような日本人を理解できないのは、おたがいの間に何がないからですか。文中から十五字でぬき出しなさい。

- 4 -

問7 本文から読み取れる筆者の考えとして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 日本人はもともと個人よりも集団の利益を重んじる文化をつくってきた。それに対してヨーロッパやアメリカでは、集団よりも個人の利益を大切にする文化が主流である。国際化が進む今後は、前者のような日本的な文化が世界の中心になるであろう。
- 2 人は身振りやしぐさによって社会とつながっている。したがってしぐさの意味を考えることは、その社会がどのような文化を持っているかを理解するうえで重要な手がかりとなる。たとえば日本人の「あいづち」からは相手へのいたわりが見てとれる。
- 3 日本人は「あいづち」を話し手と聞き手との楽しい共同作業であると考ええる。これと同じような同調的なしぐさが、ウィーンやパリの人たちがよく行う「タクト」にも見られる。ただし後者が受け手の役割の方をより重視するという点で両者は異なる。
- 4 世界中のどの国や社会でも個々のしぐさによるコミュニケーション手段を持つ。アメリカやスイスでは、日常的な異人種との接触がイエスかノーかを明確にする文化を生んだ。したがって異文化交流がさらに進むと、「あいづち」も消えていくだろう。

(問題は次のページに続く)

② 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

主人公の中学生「まり子」の実家は菓子屋で、七つ年上の姉「のりえ」がいる。「のりえ」は来月結婚を控え、子どもの頃の洋服を整理していた。その時、「まり子」は小さい頃に「ばあちゃん」がつけてくれた「へりんごさん」のアップリケのついたTシャツを見つけた。そのTシャツは「まり子」に、今ではもうすっかり年をとってしまった「ばあちゃん」の元氣だったころを思い出させてくれた。

「のりえ、すまんのう……」

となりの部屋から、ばあちゃんの声がした。起きたばかりらしく、声がかさかさしている。

ねえちゃんは、たたみに散らかった洋服をあわててダンボール箱へおしこむと、たたみの上手でなでてつまずくものがないか、すばやくたしかめた。それからガラス戸をあけて、ばあちゃんのそばにいった。ねえちゃんは、ばあちゃんの下を左手でささえながらゆっくり立たせると、右手できものすそをたくしあげて帯の中にはさみこんだ。

「ばあちゃん、ゆっくりあるきいや。」

ねえちゃんは、注意ぶかくばあちゃんのからだをささえであるきだした。

① トイレにむかうふたりがまり子のまえをとおりすぎるとき、まり子はいつも、思いだしたようにテレビのスイッチをいれてみたり、カレンダーをめくってみたり、時計のねじを巻いてみたりする。どんな顔をしていればいいのか、わからないのだ。けれどふたりとも、あるくのに必死で、そんなまり子に気づいたことはない。

まり子は、だんだん手も足も首までちぢんでいくようなばあちゃんを見るのが、いやだった。

まり子のばあちゃんは、いつでも元氣でたのしくなければいやだった。だからねえちゃんみたいにはあちゃんをトイレにつれていくことが、どうしてもできなかった。

ねえちゃんが家にいないときは、だれも手をかける者がいないから、ばあちゃんはおまるを使う。ばあちゃんは、おまるをつかうのをとてもいやがった。まり子はいちど、ひとりでおまるにしゃがんだまま、涙をぼろぼろこぼしているばあちゃんを見てしまったことがある。

胸がきゅんと鳴った。それでもまり子には、ばあちゃんをトイレにつれていく勇氣がでなかった。

「あんた、あんなにばあちゃんにかわいがってもらったくせに、恩知らず。ええよ、あんたなんかに手つどうてもらおうとは思わんから。」

いつだったか、ねえちゃんにいわれたことを、まり子はいまでもはっきりおぼえている。

ねえちゃんはトイレからもどってきて、ばあちゃんとなりの部屋につれていくと、ガラス戸をしめて、ペしんとすわりこんだ。

「うちがお嫁にいったら、ばあちゃん、とうとうおまるばつかなるねえ。あんなにいやがっちゃうのに。」

② まり子は、ひざの上の「へりんごさん」をぎゅつとにぎって、だまってダンボール箱へおしこんだ。

夜になって、父さんの妹のフミコおばさんが、結婚祝いを持ってきてきた。

「ほんと、ちかごろの結婚式は豪華になったもんよねえ。」

机のすみに積んである書きかけの招待状をめくりながら、おばさんがつぶやいた。

「なあにをゆうちよる。フミコだって、あねえなぜいたくな式させてもううというて。」

父さんがフミコおばさんをにらんだ。

「わかつてる、わかつてる。」

となりの部屋で眠っているばあちゃんのほうをちよつと見て、おばさんが首をすくめた。

「おもしろそう、なあに？」

のりねえちゃんが身をのりだした。

「戦争に負けてすぐの、ものない時代に、フミコはカステラを引きでもものにつけてもうて嫁にいったんじゃ。まだ店の電源切られたまんまで、売りにだすまんじゅうひとつ焼けんかったのに、じいちゃんとはあちゃんが、どうしても自分たちで焼いたカステラ持たせたいうちゅうての。」

「釜もなくて、どうやって焼いたの？」

「となり町の同業者に、電氣のいらん無煙炭の釜を持つちよるもんがおって、たのみこんでそこまで焼きにいったらしい。」

「焼きにいったって……材料持つて？」

「ああ、たまごも砂糖も配給制じゃ。キップがないと、お金があつても買うことがでけん。」

くばられる一まいか、二まいのキップじゃ、とうていまにあわん。たまごはおくの農家までわけてもらいにでかけて、砂糖はちかくの人にキップをわけてもらうてあつめたらしい。じいちゃんとはあちゃんが必死でかけまわつちよつたのを、ようおぼえちよる。」

父さんのことばを受けて、おばさんがつつけた。

「じいちゃんとはあちゃん、材料とダンボール箱を自転車の荷台にくくりつけて、夜中にでかけていったわ。」

「なんで夜中に？」

「なんでって……菓子はずいたく品とされてたころだもん。警察にみつかったらたいへんなことになるわ。」

「それで、それで？」

待ちきれないように、ねえちゃんがさきをせかした。

「うちらは、ふたりをおくりだしてから気がついたんよ。ばあちゃん、たしか自転車に乗れんはずじゃったって。朝がたになって、はるかかなたからさけび声がきこえてきたん。あわてて通りにとびだしてみると、自転車にまたがったばあちゃんが、すごいいきおいで突進してくるんよ。」

『とめてくれ！。だれかとめてくれ！。』

兄ちゃんとふたりでだきかかえるようにして自転車とめたの。それでも荷台に積みあげたカステラは、ぶじだったのよ。」

「あのころは、ばあちゃんも元気なさかりじゃったけえのう。」

父さんが、うなるようにいった。おばさんも、うなずいた。

「うち、お嫁にいくまえにその話きけて、よかった。」

ねえちゃんが、目のふちをこすりながらいった。まり子ひとり、だまってみんなの話をきいていた。

フミコおばさんがかえったあとで、まり子はぼそりと父さんにきいた。

「ねえ父さん、あの鉄釜が店にもどったときのこと、おぼえちよる。」

「おう。のこずのこなで白うなつた釜を、ばあちゃんがなんどもなんどもみがいての。スイッチをいれると、鉄釜がびいーんとひとつ武者ぶるいしおつた。あんときのじいちゃんとはあちゃんの得意そうな顔、わすれられんのう。」

それから十日ほどたった日曜日、ねえちゃんの婚約者とお仲人さんが、結婚式の打ちあわせにやつてきた。

うだるような暑さで、父さんたちはお昼からビールのせんをぬいていたし、まり子もなんだか冷蔵庫をあけて、サイダーをのんだ。

③ ただひとり、ばあちゃんは、ほとんどなにも口にしなかった。

「あれ、ばあちゃんものみんさいね。」

母さんが、とちゅうで気がついて麦茶をすすめた。

「いや、わしはええ。」

ばあちゃんは、小さく笑って、首を横にふった。

話にむちゅうで、そのあとだれも、ばあちゃんのことを気にかけなかった。

「のりえさんの小さいときの写真を拝見したいものですね。」

という声に、まり子は、気をきかせたつもりで、ぱつとたちあがった。

「あたし、持ってきたげる。」

「やだ、まり子、やめてよ。」

はずかしがつっているねえちゃんの声を背中に、まり子は、はしやいでいた。アルバムは、ばあちゃんがいつもいる部屋のたんすの引きだしにはいつている。

アルバムをとりだして、引きだしをしめたまり子は、なにげなく部屋を見わたした。

（あれっ。）

ばあちゃんのおまらが消えている。

よく見ると、おまらは、大きなふろしきでおおわれていて、その上に、去年ねえちゃんがばあちゃんのために編んだ、うす水色のひざかけがかけてあった。

（ばあちゃん、なんでこんなこと……）

まり子は、かくれたおまらをにらんだ。

（ばあちゃん、おまらを見られるのがいやだったんだ。ねえちゃんにめいわくかけたくなくて、それで朝からお茶もお水ものまなかつたんだ。）

気がつくとはだして店さきへとびだしていた。

まり子の目に、黒くひかる大きな鉄釜がうつった。まり子は、両手でそつと鉄釜をさわった。

（そうだ！）

④ まり子はそのまま、ものおきへはしった。

しばらくして、まり子は、みんなのまえにもどってきた。

「どこへいったの。アルバムとりにいくのにいつまでかかってんのよ。」

ねえちゃんが、にらんだ。

まり子は、ばあちゃんのそばにいくと、耳もとでささやいた。

「ばあちゃん、いっしょにトイレにいこう。」

ばあちゃんは、とつさにガラス戸のむこうを見た。そして、くちびるをかすかに動かしてまり子を見た。まり子は、ごわつとした、しわだらけの手をにぎった。

ばあちゃんのからだは、考えたよりずっとおもかった。肩に岩をのせられたようで、立つているのがやつとだった。火を吹きだすように顔は赤くなるけれど、はじめの一步がふみだせない。

「まり子、もうええよ。」

ばあちゃんがいったとき、だれかがひよい、とまり子のおしりをおした。

「まり子、がんばり！」

ねえちゃんの声だ。はずみで、右足が、ついつとでた。

一步、二歩。

肩にかかる重さで、なにも考えられなかったが、ばあちゃんとふたりであるきだせた。まり子は、ひじでトイレのドアをあけると、ばあちゃんにあとで合図した。

「ばあちゃん、これ見て！」

トイレの手すりに、布きれが、ぐるぐるとまきつけてあった。白いタオル地に赤い色が見えかくれている。

「ばあちゃん、へりんごさんよ。おぼえちよる？」

ばあちゃんは、目をほそめると、指の節がごきりと太くなった手で、手すりをなでた。

「手すり、にぎりやすかる？へりんごさんのすべりどめ。ばあちゃんとうちの、ひみつじやつたもんね。」

まり子は、両足をふんばってばあちゃんの重みをささえながら、もういちどへりんごさんを見た。

（村中李衣「りんごさん」より）

※あの鉄釜……ばあちゃんがとても大切にしていた鉄釜で、戦争の時に国に持って行かれないようにこのこくず小屋に隠してあった。

問1 ――線a「首をすくめた」・b「武者ぶるい」・c「目をほそめる」の説明として最もふさわしいものを次から一つずつ選び、番号で答えなさい。

a 首をすくめた

- 1 怒りの感情を表すしぐさ
- 2 照れくさそうにとりつくろうしぐさ
- 3 不満であることを表すしぐさ
- 4 相手に同意することを表すしぐさ

b 武者ぶるい

- 1 心が嬉しさに弾んで身体がふるえること
- 2 心が恐怖にすぐんで身体がふるえること
- 3 心が勇み立つあまり身体がふるえること
- 4 心が悲しみに沈んで身体がふるえること

c 目をほそめる

- 1 意外なことにおどろく
- 2 嬉しさに笑みをたたえる
- 3 あまりの美しさに夢中になる
- 4 関心をもってよく注意する

問2 ――線①「トイレにむかうふたりがまり子のまえをとおりすぎるとき、まり子はいつも、

思いだしたようにテレビのスイッチをいれてみたり、カレンダーをめくってみたり、時計のねじを巻いてみたりする」とありますが、まり子がこのようにするのはなぜですか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 今まで元気だったばあちゃんがだんだんと歩けなくなり、一人でトイレにも行けなくなっていることを受け入れられず、その姿を見たくないと感じているから。
- 2 ずっとたのしい存在であったばあちゃんが、だんだんと頼りなくなっていくことに関して、なぜこのようなことになってしまったのかという原因を深く考えているから。

3 だんだんと年をとっていくばあちゃんの世話をすることがなかなかできず、そのことをのりえに強い口調で注意されるので、見つからないようにしようと思っているから。

4 ばあちゃんが急に元気がなくなり、自分でトイレにも行けなくなってしまうことが信じられず、大変な思いをするぐらいなら、おまるを使ったほうが効率が良いと考えているから。

問3 ――線②「まり子は、ひざの上のへりんごさん」をぎゅつとにぎって、だまってダンボール箱へおしこんだ」とありますが、この時ののりえとまり子の気持ちの説明として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 ばあちゃんを無事にトイレに連れて行ったという達成感にひたっているのりえに対して、まり子は姉のようにばあちゃんの世話をすることができないことに後ろめたさを感じている。

2 ばあちゃんをトイレに連れていくことで疲れ果てているのりえに対して、まり子はいつもまでも姉一人に任せておくわけにはいけないので、ばあちゃんの世話をするという強い決意を持っている。

3 ずっと世話になってきたばあちゃんの気持ちを考えていないとどなるのりえに対して、まり子は乱暴な態度をとってそれに反発している。

4 年をとったばあちゃんの今後のことを心配するのりえに対して、まり子はばあちゃんの気持ちは理解しているが、どうしても世話をする勇気が出せず、気持ちがゆれ動いている。

問4 ――線③「ただひとり、ばあちゃんは、ほとんどの口にしなかった」とありますが、

ばあちゃんはずいぶんこのようにしていたのですか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 みんながのりえの結婚の話に夢中でだれも自分のことを気にかけてくれないので、トイレに行きたいと言っても相手にしてもらえないと思ったから。

2 何かを飲んでしまうとトイレに行きたくなってしまいが、のりえの婚約者が来ている今日は、最初からおまるを使うように指示されていたから。

3 トイレに行きたくなることは仕方がないことだと思うが、家族以外の人の前でのりえにトイレまで連れて行ってもらうのは恥ずかしかったから。

4 何かを口にするトイレに行きたくなってしまいかもしれず、そのことが今婚約者が来ているのりえの手を借りることにつながってしまうから。

問5 ―線④「まり子はそのまま、ものおきへはしつた」とありますが、この時のまり子の説明として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 ばあちゃんが家族のことを一番に考えているということを知ったまり子は、ばあちゃんが命よりも大事だと言っていた鉄釜にさわったことで、今までの自分の態度は間違っていたと考え、二人の思い出の品である「りんごさん」を使って謝らうと思っている。

2 ばあちゃんの家族に対する思いやりの気持ちを知ったまり子は、ばあちゃんの分身のような存在である鉄釜にさわったことで、今までできなかった世話をしようと気持ちがかなり、二人の思い出の品である「りんごさん」を使ってみようと思っている。

3 ばあちゃんが常に家族のことを第一に考えていたということを知ったまり子は、ばあちゃんがとても大切にしていた鉄釜にさわったことで、自分も同じようにばあちゃんを大切にしようと考え、二人の思い出の品である「りんごさん」を見せてまずは感謝の気持ちを伝えようと思っている。

4 ばあちゃんの家族を思う温かい気持ちを知ったまり子は、ばあちゃんの今でも大事にしている鉄釜をさわったことで、今からでも恩返しをしたいという気持ちになり、二人の思い出の品である「りんごさん」を勇気を出すためのお守りにしようとしている。

問6 この文章の内容を説明したものとしてふさわしいものを次から二つ選び、それぞれ番号で答えなさい。

1 のりえは、ばあちゃんの世話をするそぶりを見せないまり子に対して、もう世話はしないでいいと強い口調で言いながらも、自分が結婚した後もばあちゃんがおまるを使わないですむように、いつかまり子とその役目を引き受けてくれることを願っている。

2 自分の結婚式の時は引きでもものにつけてもらったカステラ以外は満足な準備をしてもらず、今でもそれを不満に思っているおばさんは、自分の時とは違って、招待状の紙から良いものを使い、豪華な式を挙げようとしているのりえに対してうらやましく思っている。

3 のりえが結婚してこの家を出て行ってしまったことになった今、ばあちゃんをトイレに連れて行くのは自分しかない、強く決心したまり子は、勇気も力もなかった今までとは違い、自分が一人前になったことを示すために、「りんごさん」を手すりに巻くことにした。

4 自分が結婚した後のばあちゃんのお世話を誰がするのかわからない心配事で頭がいっぱいであつたのりえは、ばあちゃんのことを大切に考えているという父やおばさんの思いを聞き、自分が家からいなくなっても家族全員で助け合ってくれると安心してゐる。

5 ばあちゃんのことを大好きだが、トイレに連れて行くとなるとなかなか勇気が出なかったまり子は、のりえがばあちゃんのお世話をしている姿を見てもあえて自分から手伝うことをしなかった結果、のりえからは非難されるようになってしまった。

6 若く元気だったころのばあちゃんと家族の思い出にひたっていた父は、改めて自分たちがばあちゃんの優しさ^{やさ}に守られてきたことに気づき、ばあちゃんのお世話をのりえ一人に任せて安心してゐたことに罪悪感を感じている。

3 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

わたしは 何処へ

わたしは 何処へ

行くのでしょうか

は荒野だ

とはいっても

歩いて行かない

わけにはいかないのです

風のつよい日

灌木のしげみがさわいで

わたしの髪も みだれました

日も 月も

流れて行きます

愛もまた流れ去る

とはいっても

愛なしで生きて

いけるでしょうか

風のつよい日

思い出がめくれて

癒えたはずの傷がまた いたりました

白い道は どこまでも

つづいています

はひとつの旅だ

とはいっても

小鳥のようにとまる枝が

あつてのことでしょうか

風のつよい日

遠くの野には花があると

じぶんがいい聞かせて 歩きました

(新川和江『新川和江詩集』より)

- 15 -

問1 — 線「愛もまた流れ去る／とはいっても／愛なしで生きて／いけるでしょうか」とは、どのようなことを表していますか。その説明として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 愛情が移り変わるのしかたななかで、他人への愛情を常に持ち続けていけるのかという自分への問いかけを表している。

2 どんな愛情もいつかは消え去るけれども、そのたびに新たな愛を見つける努力を続けていくべきだという思いを表している。

3 愛情が移り変わるの避けられないので、それを知ったうえで生きていけるかどうかという読者への問いかけを表している。

4 愛情が失われることはとめようがないというものの、愛なくしては生きていくことなどできないという思いを表している。

問2 この詩はもともと三つの連から構成されていますが、第三連はどこからはじまりますか。最初の行をぬき出しなさい。

問3 詩の中の2か所の空らんには、同じことばが入ります。最もふさわしいことばを次から一つ選び、番号で答えなさい。

1 恋愛 2 人生 3 運命 4 想像

問4 この詩についての解釈として、ふさわしいものはA、ふさわしくないものはBでそれぞれ答えなさい。

1 「癒えたはずの傷がまた いたりました」とは、今まさになかなぬ恋に心を痛めている作者の気持ちと考えられる。

2 「白い道は どこまでも／つづいています」とは、明るい未来が目前に広がっていることを暗示したものである。

3 「遠くの野には花がある」は、この先どこかにあると信じている幸福や充足感などを象徴的に表現したものである。

- 16 -

4 次を示すア、イ、オの二字に共通の部首を加えると熟語ができます。その部首の由来を後の1から選び、それぞれ番号で答えなさい。

例 楽早 十 くさかんむり (草が並んで生えているさま) ↓ 薬草

ア 倉干 イ 各至 ウ 每羊 エ 申土 オ 主夏

- 1 十字路の形の一部
- 2 建物の屋根の形
- 3 犬のすがたかたち
- 4 穀物が実って垂れているさま
- 5 人の手の形
- 6 まつりごとで使う台の形
- 7 刃の反った刀の形
- 8 水が流れているさま

